

1: 【The Black Note】第15話 不死鳥の卵
2:
3: ■オープニング
4:
5: セレスモノローグ「ブラックノート、黒い背表紙……漆黒の装丁の闇の歴史書。12の精霊核の
6: 伝説を時の果てまで追いかけた黒髪の歴史家がひっそりとまとめ上げたものだという。ど
7: こにあるのか永遠の謎とされてきた真相がついに解き明かされ、闇に消された真実の歴史
8: があたしたちの目の前に姿を現そうとしていた」
9:
10: ■タイトルコール
11: デュレ「The Black Note 第15話 不死鳥の卵」
12:
13: ■本編
14: □時計塔で。外は降り続く雨と、雷鳴。
15: SE：雨の音。雷鳴。
16:
17: デュレ「何故、こんなところに封印の絵があるんです？ さっきのフォワードスベルでここは
18: 狙ったんじゃないでサムの家を狙ったんです。マリスの魔法の影響を受けたとしても、こ
19: んな……時計塔にあるはずなんてない。——答えてください、リボンちゃん！」
20: シリア「——そうだな……、お前たちが学園から盗み出した……、と言うより、盗み出すはずの
21: 絵がこの……ここにある絵だと言ったら？」
22: デュレ「どういう、ことですか？」
23: シリア「マリスにフォワードスベルを妨げられた絵は時の狭間に落ちて行方不明だ。一言で言え
24: ば、それとお前たちの目の前にあるこの絵はクロニア的解釈をしたら、全くの別物にな
25: るさ。つまり、この絵を今、お前たちが1516年に持ち帰り、そこで初めてお前たちの
26: 物語が始まるんだ」
27: デュレ「……意味が判りません……」
28: シリア「何でもいから、持って帰れ、そうしたら判る（ため息）……未来は万人に向け、開か
29: れたものだ、いつか言ったな。時は流れるものではない。……その証拠にキャンパス
30: の右隅をよく見てみる」
31: デュレ「あ……。破れていない……」
32: シリア「過去は過去、今は今、未来は未来であり、関連を残しつつ、それぞれが独立している」
33: デュレ「この絵はさっきまでわたしたちの目の前にあった絵じゃない……？」
34: シリア「ふう。やっと理解できたか……。全く」
35: デュレ「リボンちゃんの説明が下手すぎるだけです」
36: シリア「う、く、余計なお世話だ！ ——それはお前であり、お前でないデュレがこの1292年
37: でフォワードスベルを使おうとしたものだ」
38: デュレ「……わたしであってわたしではないわたし？」
39: シリア「そう。ま、オレも詳しいことは言えないがね」
40: デュレ「でも、それじゃあ、この絵がここにあることの説明になっていません。例え、わたしで
41: はないわたしが失敗してこうだろうと、わたしが失敗してこうだろうと——」
42: シリア「時計塔に絵があるはずはない」
43: デュレ「そうです……。でも、きっと、わたしが今からあなたに訊こうと思ってることの答えが
44: 得られたら、必然的に判ると思います。いいですか……」
45: シリア「ああ」
46: デュレ「破れた絵は今どこにあるんですか？」

47: シリア「今さる、どこともいえない時の狭間を漂っているよ……。あの絵はこれからオレが探す
48: んだ……。まあ、オレと言ってもオレじゃないが……。結局、過去と今はそれぞれ独立し
49: た存在だ。多少の干渉はあるが、ほぼ無関係と言ってもいい。過去と未来が一直線に繋
50: がったものという考えを捨てないと理解できないぞ」
51: デュレ「まあ、そうでしょうけど。取り敢えず、わたしの質問に答えてください。では、わたし
52: がメッセージを残して、呼ぶはずの未来のわたしたちは誰ですか？」
53: シリア「お前たちであって、お前たちではないものだ。つまり、お前たちの1516年とこの時代
54: の先にある1516年とは違っているって言うことだ。ただ、あまり気にしていても仕方が
55: ないさ。せいぜい、生命が新陳代謝をするように歴史も新陳代謝をすると言うぐらいにと
56: どめて置いた方がややこしくなくていいんじゃないか？」
57: デュレ「はあ……。そこはかとなく判ったような気がしますけど、どうなんでしょうね？」
58: シリア「理解できなくても大した問題ではないよ。そもそも、オレもよく判らん」
59: デュレ「けど……その封印の絵が時の狭間に落ちていたとして、いつ見つけたんですか？」
60: シリア「1498年——」
61: デュレ「1498年。わたしが生まれた年です。でも、そうしたら、どうして1292年に？」
62: シリア「全く、散々だったよ。頼れるのは誰もいなかった……。と言ったら、ジーゼとサムが怒
63: るかな。そもそも、どうやって探しているのかも判らなかつたし、運良く見つけたとして
64: どうやって、時の狭間からこっちに引っ張ってくるかが大問題だった。ともかく、ジーゼ
65: の強運でも言うような切っ掛けで絵は見付かり、異空間から引っ張り出すとっかかりま
66: では掴んだんだけどなあ……」
67: デュレ「それは……。失敗した？」
68: シリア「ああ、見事に失敗した。再び、絵は時の狭間に消えていったよ」
69: デュレ「それなのに、どうしてリボンちゃんはその絵がこの時計塔にあると知ってたんですか？」
70: シリア「ここまで話したんだから……。洗いざらい全てを吐き出してもいいのかもしれない」
71: デュレ「話してください。毒を食らわば皿まで……とこの時代に前に言っただけです。あな
72: たがあのリボンちゃんならもちろん覚えてますよね……。もう、後へは退けません——」
73: シリア「判った——。1498年で取り戻すことに失敗したオレは久須那の絵を探すのにもう一度、
74: ジーゼ……精霊核の協力を頼んだ。もし、過去の方に行ったのなら、精霊核の記憶に小さ
75: な“揺らぎ”として残っているはずなんだ。そして、とりあえず、見付けはしたんだ。ここ
76: ら辺の時代のどこかにあるってことまではね。ま、意外だったけどな」
77: デュレ「けど、この時代に落ちたなら、誰かが先に見付けていてもおかしくはないはずなのに？」
78: シリア「……答えはそんなに難しくない。絵が現れるだろう正確な日時が判ったからな。今から、
79: およそ半年前、1291年の冬だ」
80: デュレ「それは精霊核の記憶から計算したんですか？」
81: シリア「それは出来なかった。が、思わぬ方から答えが得られたのさ。……な、デュレ」
82: デュレ「は……。？ ひょっとして……わたし……ですか？」
83: シリア「そう、お前だった。しかし、オレはお前に詳しくは教えてやれない。向こうであった時、
84: そう言う約束をここで交わしたとお前は言っていた。だから、何も言う必要はないと」
85: デュレ「ええ、わたしが必ずその答えを導きます。あ……」
86: シリア「だから、お前たちはこの絵を持って帰らなければならない」
87: デュレ「わたしたちの時代に……？」
88: シリア「その通り、それを持って元の時代に戻れ。それがお前たちがシメオンの遺跡で戦った久
89: 須那の絵だ……。お前たちがそれを持って帰らないと、1516年に久須那のシルエツトス
90: キルと腕試しをすることも出来ないし、学園に忍び込んで盗み出すことも出来ない。そう
91: すると、お前たちがここに来るといふ史実は消え失せる。——つまり」
92: デュレ「つまり、わたしたちは時の理から弾き出され、帰る場所を失う……。もしかして、だか

93: ら、何度も行われたシメオン遺跡の発掘でも、久須那を封じた絵は見付からなかったんで
94: すか？ そもそも、最初からありはしなかったんだから……」
95: シリア「ま、そうとも言えなくはないが、言ったる？ 選ばれた者しか、絵を手には出来
96: ないってね……。さて、話はここまでだ。長い間話してたから、迷夢の時間稼ぎも限界
97: だろう。お前たちはそろそろ帰れ、その絵とバッシュを連れて」
98: セレス「リボンちゃん……。ホントに母さんは死んでいるの？」
99: シリア「ああ……」（言葉は少ないけど、悲しみを込めて。
100: セレス「……。そんなの……ないよ……」
101:
102: SE：小さな足音？
103:
104: シリア「セレス、デュレ。……バッシュのことはよろしく頼むな。元の時代に帰ったら、エルフ
105: の森に埋葬してやってくれ。出来れば——オレの隣に……」
106: デュレ「誰の隣ですか？」（聞きとがめて
107: シリア「ともかく、久須那はお前たちを選んだ。必ず、最後まで見届けろ」
108: デュレ「……そうですね。でも、まさか、こんな複雑なことになっているなんて——」
109: シリア「オレも知らなかったな」
110: デュレ「何故、こんなことになってしまったんですか？ 本来、あり得ない。……時の流れとは
111: 一定不変で、他からの干渉は絶対不可能なはずなのに」
112: シリア「物事に“絶対”はない。基本的にオレたちは歴史……と叫ぶらちよと語弊があるか
113: なあ、ま、いい、の一部だ。だから、新たに干渉することは出来ない。だが、いいか、歴
114: 史の一部だからと言ってそれに含まれる不確定要素までは否定しきれない。それが揺らぎ
115: だ。それが振り子なんだ」
116: デュレ「……誰が最初に振り子を揺らしたんですか……？」
117: シリア「さあ。一つ判ったのは、レイアのことが切っ掛けの一つかもしれないと言うことだな。
118: それで全てではなく、原因はかなり複合的な要素……。一つ一つはシンプルなかもしれ
119: ないが、幾つも折り重なって複雑怪奇に成り果てた。一つ一つ、解いていく時間は今はな
120: い。帰ってからじっくりやれよ。……お前たちにはそれだけの時間がある」
121: シリア「さあ、帰れ。このチャンスを逃すと戻れなくなるかもしれない」
122: デュレ「でも、どうやって帰ったらいいのか判りません。ここに来た時も、セレスの持ってた水
123: 色の欠けらとジーゼの精霊核を共鳴させてこの時代を選んだんじゃ……？」
124: シリア「オレは既にジーゼと会っている。そして、ここは時が刻まれる場所。さらにオレはお前
125: たちよりもずっと先にこの場所を知っていた。……過去未来を“時”として一方通行ではな
126: く、“立体”として自由に行き来できるあいつらの好きそうな場所だと思わないか？」
127: デュレ「……まさか……クロニアス？」
128: シリア「答えは……イエス。もちろん、直接、クロニアスの助けを借りるのは不可能だ。だが、
129: この時計塔は時空間のあらゆる場所に遍在するとされるクロニアスとその精霊核の魔力を
130: 引き寄せている可能性はある。同時に、オレたちから見て“未来”の記憶を有する精霊核は
131: クロニアスしかあり得ない」
132: デュレ「あ……」
133: シリア「不安そうな顔をしているぞ、デュレ」
134: デュレ「仮に……擬似的に精霊核の記憶のエネルギーを集められるとしても切っ掛けは……？」
135: シリア「ちゃんとある。心配は無用だ。言っただろ、ジーゼと会ってきたと。ホントはセレスが
136: 忘れずに“あれ”を持ってきてくれたら良かったんだけどな」
137: セレス「あたしが父さんからもらった水色の欠けら……？」
138: シリア「そうだ。歯車のフレームに置いてある。帰り道はオレが開く」

139:
140: SE：シリア、歩き出す。
141:
142: シリア「……バッシュを忘れるな、セレス。向こうに着いたら、ジーゼのところに連れて行け。
143: ——話はもう、ついでだから。大丈夫だ。——絵も忘れるな。ここにあと二百二十四年も
144: 置いておくことは出来ないぞ。明日には何もなくなってる……」
145: セレス「うん……」
146: デュレ「——リボンちゃん、わたしはまだ、帰れません」
147:
148: SE：シリア、歩こうとする。
149:
150: シリア「お前なら、そう言うだろうと思ってたよ」
151: デュレ「セレス、あなたは先に帰っていてください」
152: セレス「——どうして？ デュレも一緒だよ」
153: デュレ「判らないの？ わたしが帰ったら、誰があなたを夢で呼ぶの？」
154: セレス「……」
155: デュレ「わたしたちはもう時の流れの一部なのよ。起こったことは確実に演じないと、歴史その
156: ものが崩壊してしまうかもしれない」
157: セレス「でも！」
158: デュレ「……ダメ。わたしたちがここにいるってことを忘れたらダメ。判る？ 自分たちをこの
159: 街に呼ばないと、わたしたちの帰る場所がないの。時の理から弾き出されてしまう。いい
160: こと？ セレス。未来のわたしたちをここに呼ばないと、未来のわたしたちはここに来な
161: かったことになる。でも、ホントのわたしたちはここにいるのよ。いい？ けど、向こう
162: も本物。——時の流れから行けば、わたしたちが偽物になる。1516年にわたしたちの居
163: 場所がなくなるのよ」
164: セレス「小難しいことは嫌い。けど、デュレが戻ってこないじゃ意味がないじゃん！」
165: デュレ「わたしは……帰るよ？ 絶対。おねえさまを一人で放っておけるわけじゃない。先
166: に戻って待ってて。絶対だから」
167: セレス「……でも、あのデュレは『もう会えないかも』って言ってた。だって、あれはこれから
168: のキミなんだよ。……デュレがいらないなんてあたし、イヤだから。……あたしを一人にし
169: ないで、デュレ。——お願い」
170: デュレ「どうしたの、セレスらしくもない。いっつも言ってたじゃない。『デュレなんかいなく
171: ちゃえばいい』って」
172: セレス「そ、そんなの……本気じゃないの判ってるくせに……」
173: デュレ「判ってますよ……」
174: セレス「デュレ……これ、持ってて。帰ってくるまであたしの代わりに……」
175: デュレ「短剣を持っていても、きっと、わたしには使えません。だから……」
176: セレス「いいの。デュレが持ってて。……その代わりに——絶対、それ、持って帰ってきて。約束
177: してくれるよね？ 何が何でも帰ってくるって」
178:
179: SE：セレス、デュレに短剣を渡す。
180:
181: セレス「ホントは放したくない！ こんな気持ち初めてなんだよ。デュレがいなくなったらあた
182: しはどうしたらいいの？」
183: デュレ「セレス。わたしが帰ると言ったら絶対に帰るの。信じなさい」
184:

10.01.10
TBN15.rtf

185: SE：雷鳴がとどろく。
186: SE：迷夢が時計塔の機械室に転がり込んでくる。
187:
188: 迷夢「ちょおっと、リボンちゃん、いい加減にしてえ！」（悲鳴？ 怒声？
189: マリス「迷夢う～！ もう、お終いか！ お終いなら、貴様ら、皆殺しだ」
190: 迷夢「こんな相手に時間稼ぎだなんて、どだい無理な話なよのぉ！ それに時間が……、あれ
191: をやるタイムリミットまでそんなに時間がないっ！ これ以上遅れたら、失敗しちゃう
192: わぁ！」
193:
194: SE：雷鳴。
195:
196: 迷夢「さて、抗議終了」
197:
198: SE：翼を飛ばたかせて……。
199:
200: シリア「そろそろ、迷夢が休ませて欲しいそうさ。さあ、セレス、心を落ち着かせろ」
201: セレス「そんなこと、言われたって……」
202: デュレ「フォワードスベルの閻魔符を渡すから、帰ったら、これでジーゼのところへ」
203: セレス「うん……」
204: デュレ「そんな元気のないセレスなんて、セレスじゃないみたい……」
205: セレス「——必ず戻ってくるんだよ、デュレ」
206:
207: SE：セレス、デュレを抱きしめる。
208:
209: デュレ「ど、どうしちゃったんですか？ セレスらしくもない」
210: セレス「何でもないよ。さ、リボンちゃん、ちゃっちゃとやっちゃって」
211: シリア「なぁに、準備はもう出来ているさ。そこをみってみろ。どうなってる？」
212: セレス「はぁ～。来たときと同じような感じ。目の前がゆらゆらと揺れてゆがんでるように見え
213: る。にしても、難しそうなことを言っていた割には早いのね」
214: シリア「それはな。——別にお前と話しながら用意するなんて大したことじゃないんだぞ。お前
215: ら、オレが誰だか忘れてるだろ？」
216: デュレ「氷の精霊王さまですものね？」
217: セレス「じゃ、絵を持ってくる」
218:
219: SE：絵をずるずる運ぶ音。
220:
221: セレス「ちょっと、この絵、重いんだけどさ……。で……。訊くの忘れたんだけど、あれ、どこ
222: に出るの？」
223: シリア「全然、判らない。そうだろう？ 何でもかんでも、最初から判るなんて都合のいいこと
224: は簡単には起きないことなの」
225: セレス「ふ～ん……。じゃあ、行くからね。——必ず戻ってくるんだよ、デュレ」
226: デュレ「わかりました」
227: セレス「じゃ、また、後でね」
228:
229: SE：トキを越える音。
230:

10.01.10
TBN15.rtf

231: デュレ「何だか、——呆気ないですね。色んなことがあったのに、帰る時はこんなにシンプルな
232: なんて。……何で、セレス相手にこんなに淋しいと思わなくちゃならないんですか……」
233: シリア「デュレ……」
234: デュレ「——何も言わないでください」
235: シリア「そうか……」
236: デュレ「それにしても、わたしはメッセージをいつ送ればいいのかしら……。少なくとも、今
237: じゃない、けれど、いつ送ったら、未来のセレスに届くのか……」
238: シリア「そんなこと、考えたって無意味さ。チャンスは必ず巡ってくる」
239: デュレ「そうですね。それより、マリスを何とかしないと……。だって、そうですね。わたし
240: たちがウィズと封印の絵を見つけた時、マリスはいなかった。と言うことはやつけたの
241: ではないにしろ、動きは封じたのに違いありません」
242: シリア「……」
243: デュレ「でも、マリスを封じるのはリボンちゃんと迷夢だけでは無理なんじゃないですか……？
244: だから、わたしがここに居る。いくら、因果応報、因果律の流れの中に全ての事象がある
245: と言っても、それ以外にわたしがここに居なければならぬ理由が見あたりません」
246: シリア「謙虚だというか、健気だというか、何というか、あれだな。自信過剰？」
247: デュレ「わたしの魔力は当てに出来なくても、サポートくらいは出来ます。少なくとも、ポロポ
248: ロの迷夢よりずっと役に立つはずですよ」
249: シリア「——セレスよりは物わりのいい奴と思ってただけだな？ 意外と頑固だ」
250: デュレ「それ程でもありません。わたしは素直です」
251: シリア「そうか……？」
252: デュレ「ええ。少なくとも久須那さんの絵をどうかするくらいで、わたしのここでの役割が終わ
253: らないと言うことが判るくらいには……ね」
254: シリア「フフ……。察しがよすぎるのも困りものだな。そうさ、オレと迷夢だけじゃ、マリスを
255: 殺すことも封じることも出来ない」
256: デュレ「でも、わたしが居たら……」
257: シリア「どこまで出来るだろうな。ま、いい。悩むだけ時間の無駄だ。付いて来い。……ただし、
258: オレと来たら、マリスとの二連戦は避けられないと肝に銘じておけ」
259:
260: SE：階段を駆け下りる音。
261:
262: デュレ「……ところで……、セレスは無事に戻れたんでしょうか？」
263: シリア「済まないが、わからない。ホントのところはこの時代でオレとお前が会えただけでも奇
264: 跡かもしれないんだ。確かに、歴史的必然とも言うべきどうあっても揺るがない、最後の
265: 最後にならないと崩れない物から、些細なことで脆くなくなってしまう物まで色々なんだ」
266: デュレ「でも、セレスがここから居なくなったのは紛れもない事実ですよ」
267: シリア「——基本的に因果律が成立するように全ての事象は動くはずだが、それは時間を一面的
268: に捉えた場合だ。クロニアス的な時間論ではそうはならない」
269: デュレ「悔しいですけど、理解の範疇を軽く越えています……」
270: シリア「ははっ、そんなこと判らなくても困らないだろ。……それにお前にはまだ時間がある」
271: デュレ「……リボンちゃん、あなたは何か大切なことを隠していますね」
272: シリア「さあ、どうだろうな……」
273: デュレ「訊いても教えてくれないんですよ、きっと」
274: シリア「ふ……どうだろうな？」
275:
276: SE：雷鳴。

10.01.10
TBN15.rtf

277: □時計塔の屋根の上。
278: ・クロニアスがこの行く末をじっくりと観察している。
280:
281: ラール「さ・て・と、一人目は送還完了。二人目は……どうなる？」
282: ルーン「お、大筋で前の時と一緒よ。まだ、問題ないわ。わたしたちが手を出すとしたら——」
283: ラール「もちろん、判ってるよ、ルーン。けど、手をこまねいてみている間にも事態は進行する
284: んだよ。例えば、デュレが帰れなかったり、万一、マリスが無傷で切り抜けたとしたら？」
285: ルーン「例え話でもそんなこと、言わないでよ。縁起でもない」
286: ラール「けど、やっぱり、流石だよ。リボンちゃん。ぼくたちの性質をよく心得てる。でなければ、
287: ぼくたちの精霊核を間接的に利用して未来へ帰ろうなんて、思いつかないよね？」
288: ルーン「伊達に精霊王ではないと言うことでしょう。と言うか、それぐらいの権威があるなら、
289: 思い浮かばない方がどうかしてるわ……。それから、一個だけ付け加えておくわ、リボン
290: ちゃんが利用したんじゃないかと、利用させてあげたのよ、わたしが。でなければ、あの子
291: たち、永遠にここから動けない。そう言うもんなのよ。他の精霊さんたちは——」
292:
293: □時計塔の外。
294: ・マリス対迷夢。
295:
296: 迷夢「はっくしょん！ あ〜。だから、雨の日の屋外ってイヤなのよねえ？ やっぱ、流石よね、
297: マリス。強いじゃん？」
298: マリス「当たり前だ。小手先の技しか使えない貴様に後れをとると思うか？」
299: 迷夢「いくらあたしだって簡単にキミに勝てると思うほどの自惚れやさんじゃないのよ」
300: マリス「それくらいは……判っているつもりだ。そんなお前がわたしは怖い」
301: シリア「迷夢！ まだ、生きてるか？」
302: 迷夢「リボンちゃん？ しつづいかな。生きてるに決まってるじゃない。余裕もないくせに、憎
303: まれ口をきいてたら、お仕置きしちゃうぞ♪」
304: シリア「お前こそ、余裕もないくせに減らず口なんか言ってる場合か」
305: 迷夢「ありゃ？ エルフの子猫ちゃんが一人足りないようだけど……？」
306: シリア「セレスは帰らせた」
307: 迷夢「帰らせたって……どこへよ？ 外へ出て行くところは見えなかったよ」
308: シリア「それはそうだ。時を跳躍させたんだ。外へ出る必要はないだろ？」
309: 迷夢「はあ〜ん。時間跳躍なんて、なかなか便利そうじゃない。あたしもご相伴にあずかって、
310: この悪夢のような場面から逃げ出したいわあ。土砂降りの雨、雷、もお、最悪。せめて、
311: お天道様があたしを見詰めてくれたらなあなんて思うワケよ」
312: シリア「バカ言ってる場合じゃないだろ」
313: 迷夢「いいのよ。こういう時だからこそ、おバカをやって楽しんでんじゃない。ねえ、マリスっ」
314: マリス「わたしは別に楽しくはない。普通に相手をしてくれた方がずっといいぞ」
315: 迷夢「あ〜ら、つれないわね。折角、ご期待通り一対一でここまで頑張ったのよ。けど、これか
316: らは三対一よ。もちろん、キミに助っ人はなし！ どうだっ！」
317: マリス「おめでたいな、相変わらず……」
318: 迷夢「辛気くさいより、おめでたい方がいいでしょう？」
319: シリア「まあ、何でもいい、迷夢。折角、オレたちが来たんだ。お前はお前の目的を果たせ。そ
320: れが叶わなければ、オレたちのしてる事が全部無意味になってしまうからな」
321: 迷夢「……大丈夫？ たった二人で……？」
322: シリア「仕方がないだろっ！」

10.01.10
TBN15.rtf

323: 迷夢「じゃあ、リボンちゃん、エルフの子猫ちゃん、ちょっと大変だろうけど、任せるからね」
324:
325: SE：迷夢、飛び去ろうとする。
326:
327: マリス「そうはいかん！ スパークショット！」
328: デュレ「シールドアップ」
329:
330: SE：シールドアップ。けれど、シールドが崩れる音。
331:
332: デュレ「そんな……」
333: マリス「ちっ！ 小癪な」
334:
335: SE：マリス、おもむろにデュレたちに近づく足音。
336:
337: シリア「……その護符は何だ？」（小声
338: デュレ「——大したものじゃありません……。セレスがよくやることを試してみようと思って」
339: シリア「——セレスがよくやること……？ 期待薄だな、そりゃ」
340: デュレ「そうでもありませんよ。目を瞑ってください。——キャリアアウトっ！」
341:
342: SE：閃光がほとぼしる。
343:
344: マリス「くあっ、まぶしいっ」
345: シリア「いまだ！」
346: デュレ「光を滅せよ、闇の剣！」
347:
348: SE：デュレ、ふらふらと剣をふり。シリア、体当たり。
349:
350: マリス「不意を突いた気だろうが、……開け、クラッシュアイズ！」
351: シリア「っ！」
352: デュレ「あっ」
353: マリス「獣は嫌いだった！」
354: シリア「ぎゃうんっ！」
355: デュレ「えいっ！」
356: マリス「フィジカルディフェンスっ！」
357:
358: SE：がきん。ついでにシリア、飛びつく。
359:
360: マリス「こらっ！ 何をする、離れる、獣臭い、むさ苦しいっ！」
361: シリア「デュレっ！」
362: デュレ「はい。アルティメイト・ランス、キャリアアウト」
363:
364: SE：矢が連射される音。
365:
366: シリア「デュレ、セレスと一緒に帰っておけば良かったと思ってないか？」
367: デュレ「そんなことはありません。決して」
368: シリア「その顔は……マリスを倒せたらと、本気で考えてる顔だな……」

10.01.10
TBN15.rtf

369: デュレ 「ええ……。リボンちゃん、サポートお願いします」
370: シリア 「……？ 何を始めるつもりだ」
371: デュレ 「永劫なる闇の彼方、かつて栄光ある神々に列せられし邪なる僕、今、我の示したる場所
372: へ召喚せり。古の盟約により封じられし邪なる魂・テュリオムの調べをここに。調べに乗
373: りし追憶の想いに共鳴せし、一對の眼を用いて、付随する異空への道筋を指し示せ——」
374:
375: SE：邪悪な感じ。ゴォオオオオオ
376:
377: シリア 「——おい、デュレ、その魔法は……どこで……」
378: デュレ 「スクリーミングハリケーン！」
379:
380:
381: □シメオン某所。
382: ・古代魔法を発動する予定で。
383:
384: 迷夢 「さあ、光に住まう闇の言霊ちゃん！ 今がチャンスだ。心せよ」
385: 言霊 「承知」
386: 迷夢 「あ、イヤ、ちょっと待って、ストップ。先にマリスを何とかしないと、魔法が破られちゃ
387: うかもしれない……。ねえ、キミ。何か、妙案ないの？」
388: 言霊 「——他のことは知らない」
389: 迷夢 「ちえっ、融通が利かないな。ねえ、キミさ。ここまで来たら、もう、あたしがいなくても
390: 大丈夫なんだからね？」
391: 言霊 「何人たりとも所業を邪魔しないのなら」
392: 迷夢 「ちょっと厳しいかなあ。魔法の最中も結界の中で暴れ回ってると思うんだけどお……。
393: まあ、マリスだけには邪魔させないようにやってみるから、頑張る？」
394: 言霊 「指図を受ける筋合いはない」
395: 迷夢 「ま、いいや。やれったら、やれ」
396: 言霊 「承知した」
397: 迷夢 「——とりあえず、よろしく」
398:
399: SE：離れていく足音。
400: SE：とても不穏な空気を表す音。
401:
402: 迷夢 「スクリーミングハリケーン……かしらねえ、きつと。リボンちゃんの魔力を上手に行使で
403: きたら最後まで行っちゃうわね、きつと。——なんか、イヤな予感がする」
404:
405: SE：急いで、飛んでくる迷夢。
406:
407: 迷夢 「わ～わ～！ やめっ！ やめ、デュレ！ ちょおっと、デュレ。なんてことをしてるの。
408: これ、禁呪よ。禁呪。ま、関係ないっちゃ関係ないんだけど。これはキミが使うような魔
409: 法じゃない。いわゆる……」
410: デュレ 「邪なる闇魔法」
411: 迷夢 「げっ……。知っててやるなんて始末が悪い」
412: デュレ 「けど、マリスの一時、撃退には役に立ったみたいですよ……」
413: 迷夢 「って言ったって、制御不能じゃん？ まあ、一休みできるからいいけどさあ？ あれ、
414: 直接攻撃魔法じゃないんだから……。そもそも、あれを引っ張り出してくださるかどうかし

10.01.10
TBN15.rtf

415: てるのよ。しかも、……リボンちゃんの魔力を流用したでしょ。「色」で判る」
416: デュレ 「そんなに騒がないでください。黙ってたら、その射程にあるもの全てを呑み込んで、さ
417: らに自らも勝手に移動していく……。ただし、あれを形作る魔力の供給のある限り」
418: 迷夢 「何だ、知ってたんだ」
419: デュレ 「当たり前です。止め方を知らない魔法なんて、怖すぎて使えません。いいですか」
420:
421: SE：パンと手を打つ。
422:
423: デュレ 「ほら」
424: 迷夢 「まー、キミがそれでいいって言うなら、いいんだけどさああ」
425: シリア 「迷夢、光に住まう闇の何とかの準備は出来たのか？」
426:
427: SE：足音。
428:
429: 迷夢 「出来ましたわよ」
430: シリア 「よし、二人ともよく聞け、マリスを何としても地下墓地に誘い込むんだ。いいな」
431: 迷夢 「う～ん。あたしとしてはあんまり良くないんだけどなああ？」
432: シリア 「何で？」
433: 迷夢 「何でって、あんな狭い入口からどうやってあんなのを連れ込むのよ。そんなのよりさああ？
434: みんなの魔力を合体してここでマリスをやっつけちゃわない？」
435: シリア 「それこそ、無理だろ？ お前」
436: 迷夢 「そおかしら？」
437: デュレ 「——地下墓地に何を仕掛けたんですか？」
438: シリア 「封魔結界の下準備。——だが、オレも正式に継承したわけじゃないからな……。所詮は
439: 我流、付け焼き刃さ……」
440: マリス 「ない頭を寄せ合って、何をこそこそとやっている」
441: デュレ 「誰がない頭ですか！ 失敬な」
442: マリス 「ふん……。まだまだ、余裕がありそうじゃないか。……たかが小娘と思っていたが、
443: 思った以上にお前は出来るな？ デュレ」
444: デュレ 「……」
445: マリス 「思い切って、わたしと手を組まないか？」
446: デュレ 「お断りします」
447: 迷夢 「何だ、折角のお誘いなのにマリスと手を組まないの？」
448: デュレ 「な、何を言い出すんですか？」
449: 迷夢 「う～ん、だってさあ、どう考えたって勝算はマリスにありそうなんだもの。キミはまだ
450: 若いから、長生きしたいんじゃないかなあって」
451: デュレ 「リ、リボンちゃん、迷夢があんなことを言ってるけどいいんですか？」
452: シリア 「……デュレがそうしたいなら、オレは止めない」
453: 迷夢 「あ～ら、妙に物分かりがいいじゃない？ この前までちいちゃな子犬ちゃんだったのに」
454: シリア 「茶々を入れるな。オレは至って真面目だぞ。それに狼」
455: デュレ 「リボンちゃん……。あなたは本当にそれでいいと思うんですか？」
456: シリア 「オレは……」 (マリスに遮られる
457: マリス 「畏だと思っか、それとも貴様がわたしを畏に陥れるのかな？ わたしはそれでも構わな
458: いぞ。今、この時を切り抜ける最良の選択をするといい。ただし、貴様が色よい返事をし
459: なければ、まとめて地獄行きだ」
460: デュレ 「……あなたの目的は何なんです？ 何にそこまで固執して、どうして、わたしたちに

10.01.10
TBN15.rtf

461: 戦いを挑むんですか？ あなたに……戦う理由なんてないはず……」
462: マリス「手に入れたいものがある。そのためならば、かつての仲……いや……。敵を手にかける
463: こともいとわない。将来、邪魔になる存在はここで滅ぼし、昔、失ったものを取り返す」
464: デュレ「それは……」
465: マリス「——そこまで答える義理はないな。しかし、“白紙”の貴様なら我が帝国に迎えてもいい。
466: 例え、わたしを討つという目的を孕んでいるにしろ、根元的に貴様の目的ではないだろ？
467: それはシリアの目的であり、他の誰の目的にもなり得ない」
468: デュレ「しかし、歴史は……」
469: マリス「歴史などどうだろうと構わないだろう。貴様が今ここに居る以上に重要なものはない。
470: 貴様がどこから来たのか、貴様らが正しいと認める歴史が何なのかなどには興味はない。
471: ……もし、貴様がこれから先の道筋を知っているのなら、同じ轍を再び通るのはつまらな
472: いと思わないか？」
473: デュレ「……」
474: マリス「さあ、どうする？ チャンスは二度ない」
475: デュレ「——リボンちゃん、迷夢……。これでお別れです……。わたしはわたしの道を……」
476: マリス「——そうだ。それでいい」
477:
478: SE：マリス、デュレを抱っこして。
479:
480: シリア「何でもかんでも、自分一人で背負い込みやがって——」
481: マリス「決着はお預けだ。わたしも犬死にはしたくないからな」
482:
483: SE：空を飛んでいく。
484:
485: 迷夢「ちょ、ちょっとお、どうするのよ。あれえ」
486: シリア「なあに、心配はいらないさ。デュレはあいつのやり方で何かをしようと考えたんだろ
487: うさ。どのみち、明日のお昼までには決着は付くんだよ。オレたちが勝つていようが、負け
488: ていようがね」
489: 迷夢「そうなんだけどさああ。出来ることなら、勝ちたいじゃない？」
490: シリア「まあな……」
491:
492: SE：シリアと迷夢で、トボトボ、地下墓地大回廊へ。
493:
494: シリア「——サム、あれの準備は出来たか？」
495: サム「出来たぜ、一応な。しかし、てめえもよ、随分えげつないことを考えるよな」
496: シリア「……構わないだろ？ と言うより、仕方がないだろ。そうでもないしマリスの動きは封
497: じられない。そして、そもそもここはそう言うことをするために作られた場所なのさ」
498: サム「まーそうだけだよ。へっ、マリスの墓にゃあちーとばかり立派すぎるような気がするがね」
499: 迷夢「そんな軽口なんか叩いてたらさああ？ あたしたちの墓場になるよ？」
500: サム「一番の軽口たたきはてめえだろうが」
501: 迷夢「あら、あたしはいいのよ。あたしは喋らないと調子が出ないんだから」
502: 久須那「——マリスはどうした？ デュレとセレスは？」
503: シリア「セレスは向こうに返した。デュレは……デュレはマリスと一緒に」
504: 久須那「ちょっと、待て、どういう意味か、判りやすく説明してもらえるか？」
505: 迷夢「ま、そんなの追々わかるって。細かいことは気にしない気にしない。それよりも、久須那、
506: ちょっと、ロミィを返して」

10.01.10
TBN15.rtf

507: 久須那「あ、ああ」
508:
509: SE：久須那、ロミィを迷夢に手渡す。
510:
511: 迷夢「さあ、ロミィちゃん。あたしに教えてちょうだい」
512: ロミィ「……」
513: 迷夢「あ～もうっ！ 肝心な時に役に立たないのね。それとも、本当に見えない？」
514: ロミィ「……」
515: 迷夢「リボンちゃんなら、生来の能力と相まって何か見えないかしらね？」
516: シリア「う……」
517: 迷夢「どしたの、リボンちゃん？」
518: シリア「——。いや、何でもない」
519: 迷夢「そおお？」
520: ロミィ「……」
521: 迷夢「む～。ねえ、久須那は何か見させてもらった？」
522: 久須那「いや、特に、わたしは何も……。わたしが知ったところで、意味がないし、特に訊こう
523: とは思わなかった」
524: サム「久須那、てめえ、あとどのくらい留まっていたら？」
525: 久須那「さあな。——残された魔力の消費のされ方次第だ。判らない……けど、まだ一日か、半
526: 日は」
527: サム「——一日か、半日。……たったそれだけか。——てめえはきつと、デュレたちの来た場所
528: にもいるんだろな。俺も向こうに行きてえな……」
529: 久須那「どうした、サム？ お前らしくもない」
530: サム「うん？ ああ？ てめえを気に入りだしたのはいつだったかなってよ」
531:
532: ・少しの沈黙……。
533:
534: 久須那「サム……。黙るな、話をしよう。——ようやく、二人きりだ……」
535: サム「あれはどうなるんだよ」
536: 久須那「……あれは……いいだろう？ あれは……く、空気だと思えばいい」
537: サム「ちょっと、苦しいな。でもよ、こんなのも今日で最後なのかな……」
538: 久須那「お前次第だ……。オリジナルから切り離されたわたしに出来ることはない」
539: サム「——なあ、久須那、てめえ、待ってろよ。必ず、向こうまで行くからよ……。クロニアス
540: でも何でも、脅してでも手段を選ばねえで、てめえのいる時代まで絶対に行く——」
541: 久須那「わたしのことよりも、お前は自分の果たすべきことをしろ」
542: サム「へへ、冷てえなあ、こんな時だって言うのによ。今、離れ離れになったら、もう、てめえ
543: とは二度と会えないんだぜ。その意味、判ってるのか？」
544: 久須那「ああ。わたしとは会えないな。だが、お前はきつと、久須那と会える」
545: サム「そうだと、いいな。だが、てめえはどうなるんだ……？」
546: 久須那「わたしか？ わたしはいい。所詮は魔力の塊みたいなものだ。オリジナルじゃない。気
547: にすることはないんだ……」
548: サム「てめえだって、久須那にかわりねえさ……」
549:
550:
551: □マリスとともに行ったデュレ。アルケミスタの教会で。
552: SE：足音。

553:
554: デュレ 「アルケミスタ……。教会……？」
555: マリス 「ああ、貴様たちのリテール協会とは違うトリリアンのな」
556: デュレ 「あの、どうしてわたしを連れてこようと思ったんですか？」
557: マリス 「……どうしてだろうな？」
558: デュレ 「……本当にわたしと手を組みたいだけなんですか？」
559:
560: ・マリス立ち止まる。
561:
562: マリス 「何故、わたしがこんなことをしようと思うのか、ワケが知りたいのか？……大切なもの
563: を失えば、貴様にも判るだろうさ」
564:
565: SE：足音、そして、ドアを開ける音。
566:
567: マリス 「貴様に面白いものを見せてやる」
568: デュレ 「面白いもの……ですか？」
569: マリス 「面白くなくても、少なくとも興味を引かれるものだとは思う」
570:
571: SE：棚か何かを開く。
572: SE：何かがきらりと光る。
573:
574: マリス 「……何が見えた？」
575: デュレ 「卵……ですか？」
576: マリス 「貴様にはそれが何か判らないか？ それくらいは知ってると思ったが……？」
577: デュレ 「いえ、知らない訳ではありません。わたしの知中にある酷似してるものがあります。
578: けれど、それはクロニアスと同じく、人の目にはほとんど触れることのないものだとある
579: 書物に記されていました。また、人の憧れでもあり、それを模倣したものが数多く出回り
580: ……、しかし、その存在はクロニアスが存在する可能性よりも低いと……」
581: マリス 「なるほど。では、これが何なのか、一応は知っているんだな」
582: デュレ 「そ、それは――ふ、不死鳥の卵です」
583: マリス 「――世界の卵だ……」
584: デュレ 「世界の卵……？」
585: マリス 「信じられないのも無理はないな。しかし、それは厳然たる事実としてそこにある」
586: デュレ 「あの、信じない訳ではないですけど。何故、それをあなたが持っていて、どうして、こ
587: れがここにあるんですか？」
588: マリス 「――それはわたしが天使の住む世界から持ってきたものだ。より正確にはわたしが生まれ
589: れついて持っていたのがそれだ。剣と卵だ。もちろん、不死鳥の卵……世界の卵の全てを
590: 天使が生来的に持ってるのではない。精霊の一種として生まれつくのもあるからな。――
591: シリアに聞かなかったのか、何故、わたしが天使の住む世界とこの世界をつなぐ扉の開放
592: を望み、そしてそれを何故、未だ諦めないのか」
593: デュレ 「いいえ、一言も聞かされていません……」
594: マリス 「――迷夢も知ってるはずだ。あいつとは古くからの仲だったからな……」
595: デュレ 「どうして、わたしにそんなことを言うんですか？ もし、わたしが……その……」
596: マリス 「裏切ったら、内偵しに取り入ったのだったら、どうするのかと？ どうもしないな。み
597: んなが知っていることを隠しても無意味だ。それが孵化した時、どうなるかも知ってるさ」
598: デュレ 「不死鳥が生まれる？」

599: マリス 「その可能性を否定はしないな。不死鳥かもしれないし、そうでないかもしれないし。そ
600: ればかりは、わたしにも判らなない。だが、その卵が孵る時、世界は変わる」